横浜市立 汐見台小学校　　学校評価報告書　　（ 令和 元 ~ 3 年度 ）

重点取組分野	令和　元　年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①「主体的・対話的な学び」の視点で子どもたちがより自分を表現できるようになるために、道徳と外国語を切り口とした校内授業研究を行う。②2カ月に一度、担任以外の教職員が読み聞かせを行うことを通して、児童との関わりの場を増やし、組織的多面的な児童理解に基づく児童の「よさ」を伸ばす生活指導の工夫を行う。	主体性、対話性を意識した学習を行うために「道徳」「外国語」を切り口として校内研究を進め授業改善、スキルアップを図ることができた。担任以外の教職員が読み聞かせを行う活動は、年1回に終わったが、各学年で工夫を凝らし、複数回実施したり、教科担任制を取り入れ、児童指導と関連づけられた。	B
豊かな心	①道徳の研修や道徳研究会で得られた情報を「道徳だより」や校内研修などを通して周知することで指導に活かす。②あいさつ運動等の取組を通して、自分からあいさつすることの良さを実感できるようにする。③YPアセスメントを年2回実施して支援検討会を開き、だれもが安心して豊かに過ごすことができる学級づくりに向けて校風づくり、児童の実行委員が立ち上がり動き出すことを目指す。	あいさつ運動は職員会議で提案した後、児童の実行委員が立ち上がり動き出しているものの、全校児童の取組になるまで時間がかかってしまった。YPアセスメントの支援検討会を通して、学級運営に生かすことができた。学年主任会を児童指導上の問題点の情報共有の場とすることができた。	B
健やかな体	① 大縄集会やマラソンタイムなど、友達と関わりをもちながら体を動かす楽しさを味わえる活動を行い、健康な体をつくるための習慣を身に付けられるようにする。② 避難訓練、防災訓練、交通安全教室、防犯教室を行い、身の安全の確保のしかたや落ち着いた行動を身に付けられるようにする。③ 校庭縮小時における体育の授業での運動が身についてきていることがうかがえる。避難	概ね体を動かす楽しさを味わうことができていることがうかがえる。ドッチビーは外遊びを推進するのに有効であった。今後も、引き続き児童が体を動かす機会を増やすことができるよう、取組みを考えていく。避難訓練の際に落ち着いて行動するなど、身の安全の確保のしかたが身についてきていることがうかがえる。避難	A
公共心と社会参画	①児童の学校での様子や成長が保護者に伝わるように「あゆみ」を作成する。②学力・学習状況調査の結果から各学年・学級の課題を明確にし、重点的に取り組む。③児童が主体的に「地域とつながる」ことができるよう、各学年「地域とのつながり」の視点で教育課程を見直し、目的を明確にして学習活動に取り組むように する。教師も地域行事	①児童の学校での様子や成長が保護者に伝わるように作成できた。②新学級の結果を考察し、各クラスの課題を意識して日頃の指導に当たっている。③各学級でのよびかけにより意識付けを行うことができた。教師が進んで地域行事に参加することで児童の意識も高まり、授業改善にもつながった。	B
未来を開く志	①たてわりで遊ぶ機会を増やし、子ども達が年齢や性別、障害の有無等に関わらず、自他の違いを受け止めながら、遊びを通してお互いの存在を認め合い、共に生きる仲間としての心情を培えるようにする。②支援の必要な児童について全職員で共通理解を図り、理解を深め、多くの目で見守り、支援する体制を作る。	①月1回のたてわり遊びの実施によって、どの学年もそれぞれのめあてを持ち、役割を分担して活動することを通して、おたがいのよさに気付き、つながりを深め合うことができていた。②必要に応じて学年や全校の児童について情報交換を行い、共通理解の下に多くの目で見守り、支援することができた。	A
a13	a21		
a14	a22		
a15	a23		
いじめへの対応	①いじめ防止対策委員会、児童支援委員会や職員間の児童理解を深める機会を増やしていくことでいじめの未然防止や早期発見に努めていく。また、いじめが疑われた場合には、チームで迅速かつ的確な対応を行う。②年2回のYPアセスメントにより学級風土の確認を行い、支援対策を行ったり、子どもの社会的スキル横浜プログラムを活用	①, ②児童理解を深める機会やYPアセスメントによる支援検討会などの機会を増やしたことにより、学年で児童を見合うことができ、学級以外の学年の児童について、理解がより深まりいじめの早期発見や学年での対応など迅速な児童対応につながった。③横浜子ども会議での話合いについては、内容の全校周知などを	B
人材育成・組織運営（働き方改革）	①一部教科分担制を全学年に導入し、多面的な児童理解と育てたい子ども像を明確にした授業改善を行うことで学年経営力を強化する。②職員のニーズに合った中堅職員によるマイスター研修を行うことにより学級経営全般や児童指導、保護者対応など広い視野での支援をして経験の浅い職員を育てる。③職員室業務アシスタント配置に伴	①一部教科分担制を行うことにより、他クラスの児童の様子が分かり、学年として共通の指導をしやすくなり、その結果、児童指導の質が向上した。教材研究の時間軽減したため、働き方改革につながった。②マイスター研修を行うことで経験の浅い職員の育成につながった。③職員室業務アシスタントの活用については	B
ブロック内評価後の気付き	児童生徒交流日、公開授業の際は、児童が主体的に考え、学び合い、積極的に取り組んでいる姿が見られた。協議会でも9年間で育成したい子ども像に迫るために「何を」「どのように」「どうやって」指導するのか、具体的に話し合った。日々の授業の中でも「アクティブラーニング研究」の成果が現れていると評価をいただいた。今後も、小学校と中学校の学びのつながりを意識してブロックで育成する資質・能力である「コミュニケーション能力」を教育課程全体で育成していくことができるようカリキュラムマネジメントに取り組み、教育活動の改善に努めていきたい。		
学校関係者評価	あいさつをしてくれる子が増えたことは実感しています。地域の「はぐくみ委員会」エコパトロール等にもう少し参加していただければ嬉しいです。いろいろな機会に学校を訪問して感じることは、どの学生も落ち着いているということです。地域でも、子どもたちを見守っていきたいです。お子さんたちはコミュニケーション能力を持ち、創造性、行動力も育てられていると思います。		
中期取組目標振り返り	「道徳」「外国語」を切り口にした授業改善は効果があり、全学年教科担任制は児童理解や児童指導面で大きな効果があった。「たてわり活動」の充実によってより良い人とのかかわり方や互いのよさを認め合う姿が多く見られるようになった。「いじめ防止」に向け、校内職員の意思統一が図られ未然防止につながった。今後も人材育成に努め、互いの同僚性を高めて教師も子どもともにも切磋琢磨する学校づくり、職場づくりを進める。		

重点取組分野	令和　2　年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①「人やものに豊かにかかわり、ともに未来を創る子」の実現をめざし、児童が学び合う楽しさや喜びが実感できるよう教師の手立てを磨き、授業力が向上できるよう校内授業研究に取り組む。②横浜市学力状況調査の結果を分析し、各学年で具体的取組を行い学力向上につなげる。③読書タイムを学年内で交換して行うことを通して、児童との関	学校教育目標を常に意識して日々の授業作りに取り組んだり、校内授業研究を通して教師の手立てを磨き日々の授業に生かしたりして、授業力向上に努めることができた。横浜市学力状況調査の結果を分析して各学年で具体的取組を行ってきたが、今後は学力向上につなげるような分析を行ってみたいと思う。各学年	B
豊かな心	① 道徳、人権や特別支援教育などの研修を生かしながら、年間を通して他者理解につながる取組を行い、児童のコミュニケーション能力の育成や相互理解を深めていくようにする。② 校内のあいさつ運動への取組を生かしながら、自分からあいさつすることの良さを実感できるようにする。③ YPアセスメントを年2回実施して支援検討会を開き	朝会、人権週間での取組や日々の登下校での挨拶を通して、「挨拶」をすることの大切さや友達を理解することの大切さを伝えてきた。気持ちよく挨拶する児童が増えていることはアンケートでも示されている。今後は、その成果が具体的な姿としてあらわれるように、コミュニケーション能力の向上、相互理解に努めてい	B
健やかな体	① 体育科では、めあてと振り返りを大切にしできるようになる喜びを実感できるようにするとともに、友達と関わりながら体を動かす楽しさを味わえるようにする。② 保健学習や家庭科では、自らの生活習慣や食生活を振り返り見つめることができるようにし健康な心身を育む意欲に繋げられるようにする。③ 集会活動では、目標をもって取り組め	① 限られた時間・場所ではあったが、友達と関わりながら体を動かす楽しさを味わえるようにすることができた。次年度は、めあてと振り返りを大切にしていくために、学習カードなどの手立てをとって指導にあたっていく。② 保健学習では意識高く、日常の生活につなげていく様子がうかがえる。家庭科では、学校で学習したこ	B
公共心と社会参画	①新学習指導要領を理解し、児童の学校での様子や成長を見取って、保護者に伝わるように「あゆみ」を作成する。②学力・学習状況調査の結果から各学年・学級の課題を明確にし、重点的に取り組む。③児童が主体的に「地域とのつながり」の視点で教育課程を見直し、目的を明確にして学習活動に取り組むようにする。教師も地域行事に参	①児童の様子や成長が保護者に伝わるよう「あゆみ」の文言を検討するなどして作成することはできたが、新学習指導要領の理解については今後も研修をしたり、実践したりしてさらなる理解に努めたい。②学力・学習状況調査の結果を踏まえて授業づくりを行ってきたが、年間を通して行うことには課題が残った。③新	B
未来を開く志	①たてわりで遊ぶ機会を増やし、子ども達が年齢や性別、障害の有無等に関わらず、自他の違いを受け止めながら、遊びを通してお互いの存在を認め合い、共に生きる仲間としての心情を培えるようにする。②支援の必要な児童について全職員で共通理解を図り、理解を深め、多くの目で見守り、支援する体制を作る。	たてわり全体で活動ができなかったのは残念だが、たてわりペアで遊ぶ活動を行ったことで、一人ひとりのつながりが深まり、関わりが密になったと感じた。お互いの存在を認め合い、共に生きる仲間としての心情を培えたと感じた。また支援の必要な児童に対して、一緒に活動できるように事前にしている子どもの姿が	B
a13	b6		
a14	b7		
a15	b8		
いじめへの対応	① いじめ防止対策委員会、児童理解研修や学年主任会など、職員間の児童理解を深める機会を増やしていくことでいじめの未然防止や早期発見に努めていく。また、いじめが疑われた場合には、チームで迅速かつ的確な対応を行う。② 年2回のYPアセスメントにより学級風土の確認を行い、支援対策を行ったり、子どもの社会的スキル横浜プ	横浜子ども会議で話し合ったことを全校に伝えたり、朝会などの様々な機会を通して自分に自信をもち、友達を理解し、他者理解を深める機会を作るなどして、児童が主体的によりよい人間関係を作れるように努めてきた。職員間の児童理解を深める機会を増やすことで、いじめの早期発見・迅速対応に努めてきた。今後は、様	B
人材育成・組織運営（働き方改革）	①一部教科分担制を全学年に導入し、多面的な児童理解と育てたい子ども像を明確にした授業改善を行うことで学年経営力を強化する。②校内の様々な研修の学びをつなげ、新学習指導要領の理解深化、日々の実践を行いながら、課題を見出したり、学びや実践を共有したりして組織運営を行う。③職員室業務アシスタント配置に伴う具体的	①一部教科分担制を全学年で導入することを通して、児童の情報交換を密に行ったり、チーム学年で児童とかかわったりすることができた。②重点研ミニ研修、メンター研修などを活用して日々の実践強化を行ってきた。一方、新学習指導要領への理解には課題が残った。③職員室アシスタントと連携しながら業務軽減、	B
ブロック内評価後の気付き	コロナ禍で、児童生徒交流日及び公開授業という形ではなかったが、実務者レベルにて、9年間で育成したい子ども像をブロック内で確認・共有した。また、中学ブロックにおける子ども会議では、それぞれの学校での取り組みを紹介し、意見交換をしながら、ブロック内での目指す方向について主体的に児童・生徒が議論する姿が見られた。この会議では、共通のキーワードを確認し、連携しながらそれぞれの学校でさらに活動を深めて、ブロック内のテーマである「コミュニケーション能力」を高めていくことが決まった。さらに、少ない機会ではあったが、ブロック内で集まった時には、積極的に児童・生徒についての情報交換を		
学校関係者評価	コロナ収束後に開催を予定している。		
中期取組目標振り返り	昨年度に引き続き、全学年で教科担任制を行い、授業改善や児童理解に努め一定の効果を得た。コロナ禍においても「たてわり活動」「グループワーク」などの方法を工夫して学校教育目標「人やものに豊かにかかわる」実現に向けた取り組みを踏襲ではなく創造した成果が児童の日々の生活にも表れていた。来年度は「豊かなかかわり」の具体的な姿を職員でより一層共通理解して学校教区目標実現に向けて職員一同邁進していきたい。さらに、いじめ防止、人材育成など、職員間のコミュニケーションや情報交換、時に研修を行いながらボトムアップを図っていきたい。		

重点取組分野	令和　3　年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①学校教育目標の実現をめざし、自分も他者も認め合い、学び合いながら自分の考えを深められる子どもを育成できるよう校内授業研究に取り組む。②横浜市学力状況調査の結果を分析し,具体的取組を明確にしたり指導改善したりしながら学力向上につなげる。		
豊かな心	①道徳、人権や特別支援教育などの研修を生かしながら、年間を通して他者理解につながる取組を行い、児童のコミュニケーション能力の育成や相互理解を深めていくようにする。②横浜子ども会議での取り組みを全校に広めながら、自分から「挨拶」することの大切さを実感できるようにする。		
健やかな体	①保健体育科の授業において、めあてと振り返りを大切に活動できるようにする。②グループによる活動を行い、児童が相互に学び合うことができるよう、友達と関わりながら一緒に体を動かす楽しさやよさを感じ、自らの健康につなげられるようにする。		
公共心と社会参画	①持続可能な地域学習を行うことを通して、児童が地域に関心をもって地域のためにできることを考え実行したり、見守ってくださっていることに感謝の気持ちをもったりする中で「地域と関わろうとする力・良さを発見する力」の育成を行う。②新学習指導要領に基づく評価、保護者への発信を行う		
未来を開く志	①子ども達が自他の違いを受け止めながら、お互いの存在を認め合い、共に生きる仲間としての心情をもつ。②福祉教育や人権教育と関連させながら年間を通してたてわりで遊ぶ活動を行い、お互いの存在を認め合えるようにする。		
a13	c6		
a14	c7		
a15	c8		
いじめへの対応	①いじめ防止対策委員会をはじめ、職員間の児童理解を深めることでいじめの未然防止や早期発見に努める。いじめが疑われた場合には、チームで迅速かつ的確な対応を行う。②子どもの社会的スキル横浜プログラムを活用して人との関わり方のスキルやコミュニケーション能力を高める取組を行う。		
人材育成・組織運営（働き方改革）	①職員一人ひとりの専門性を発揮できる場の確保、重点研におけるミニ研修、マイスター研修、メンター研修など校内研修の充実を図り学校教育目標をチーム汐見台で達成できるよう努める。児童の実態や学校の様子について話し合い、自ら課題を見つけ解決する場を設けながら学校運営が行えるようにする。		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			